

# 畜産ネットワーク ちば

## 就任に当たってのごあいさつ



千葉県農林水産部畜産課  
課長 新城 恒二

平成20年4月1日付で千葉県農林水産部畜産課長を拝命いたしました新城です。

千葉県畜産協会の会員の皆様には、日ごろから本県畜産の振興に御尽力を賜り厚くお礼申し上げます。

千葉県は、温暖な気候と首都圏に位置するという優位な立地条件を活かし、全国有数の畜産県のひとつとして発展してまいりました。

平成17年の農業産出額が全国第2位から第4位になつたことを機に、昨年度、農業産出額第2位奪還を目指し、早急に対応すべき課題について、3年間の緊急対策として「部門別緊急戦略」を策定しました。

畜産部門では、「畜産産出額1,000億円の維持拡大」をスローガンとして、以下のような対策を今年度からスタートします。

### 1 豚肉の安定供給の実現

豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）やサーコウイルス感染症（PCV）などの慢性疾病対策を昨年度に引き続き実施してまいります。

### 2 飼料自給率向上による畜産経営の安定

緊急的に飼料を増産し、飼料自給率の向上を図るため、水田を活用した飼料作物の栽培面積の拡大、飼料生産コントラクターの育成、牛を放牧する箇所数の増加、エコフィードの積極的活用を進めてまいります。

### 3 県産豚肉の知名度向上

キャッチコピー及び統一名称『旨さが多彩・チバザポーク』を用いたラジオCM等を活用したアピール活動を実施するとともに、ヨークシャー種（俗称：中ヨーク）

- もくじ
- ・就任に当たってのごあいさつ……………(1)
  - ・平成19年度第2回通常総会開催「厳しい経営環境を乗り越えるため各種事業の積極的展開を」……………(2)
  - ・肉豚価格差補てん事業に加入し経営の安定的発展を……………(3)
  - ・肉用牛肥育経営安定対策事業に加入し、肥育経営の安定を図りましょう……………(4)
  - ・肥育牛生産者収益性低下対策事業……………(5)
  - ・高病原性鳥インフルエンザ防疫強化緊急対策事業……………(5)
  - ・畜産経営の安定的発展のため、飼料購入資金を低利で融通……………(6)

2008年4月30日

第11号

発行所 (社) 千葉県畜産協会

〒260-0026

千葉市中央区千葉港4番3号

千葉県畜産会館内

発行人 森 英介

ークシャー）から生産する「ダイヤモンドポーク（千葉ヨーク）」を千葉県のトップブランドとして位置づけ、県産豚肉のイメージ向上を図ります。

### 4 和牛の生産基盤の強化

受精卵移植等の技術による優良な繁殖和牛の増頭対策、並びに和牛繁殖経営の担い手の確保、酪農経営などとの複合化の推進など繁殖和牛の受け皿の確保対策を推進いたします。

### 5 乳牛個体能力の改良

経営に直接影響を及ぼす牛の個体能力と出荷乳質において個々の経営間の技術格差が大きく、個体能力の改良を推進するため乳用牛群検定事業の全酪農家に対する周知と加入促進を図るとともに、関東生乳販売農業協同組合連合会の統一乳質基準が本年度から適用され、乳質改善が緊急課題であるため、乳質に問題のある酪農家を対象とした指導を重点的に実施いたします。

### 6 その他

優良種豚の確保対策として、県が造成した系統豚「ボウソウL3」の後継となる系統の造成を、平成26年度の完成を目指し開始します。

また、家畜排せつ物法に基づく、たい肥等の家畜排せつ物の適切な利用促進対策の実施、あるいは高病原性鳥インフルエンザや牛海綿状脳症（BSE）の発生に備える危機管理体制の整備等についても引き続き実施してまいります。

現在、トウモロコシを原料とするバイオエタノール生産の急増などにより、穀物価格の国際的な高騰が続いている。生産者はコスト上昇分を販売価格に転嫁できず、危機的な経営状況にあります。

この荒波を乗り切るためには、県、生産者、千葉県畜産協会等関係者が協力し、知恵を出し合うことが重要と考えております。今後とも会員の皆様方の御理解と御協力をお願い申し上げまして、就任のごあいさつといたします。

じ

- ・畜産新時代の「技術にふれて関心」「学んで感心」…(7)
- ・幻の豚肉「ダイヤモンドポーク」そごう千葉店で販売開始……………(8)
- ・県産豚肉の「統一名称及びキャッチコピー」旨さが多彩・チバザポーク……………(9)
- ・畜産の危機に向けて、気持ちをひとつに……………(9)
- ・平成20年度千葉県畜産関係機関一覧表……………(10)
- ・ちば畜産レディースネットワーク通信……………(12)
- ・NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター通信……………(12)
- ・編集後記……………(12)

## 平成19年度第2回通常総会開催

## 『厳しい経営環境を乗り越えるため各種事業の積極的展開を』

～平成20年度事業計画・予算案を原案どおり承認～

平成20年3月10日午後1時より千葉県畜産会館において、森会長出席のもと通常総会が開催され、平成20年度事業計画案及び収支予算案をはじめとした1号～5号議案の全議案が原案どおり承認されました。

畜産経営は、配合飼料価格の高騰により経営の存続さえ危ぶまれる、かつて経験したことのない厳しい経営環境にあり、本協会としても会員をはじめ関係機関・団体等と協調・連携し各種事業を通して経営体の体質強化を図り、畜産農家の経営安定と健全な発展に努めることとしており、平成20年度の主な事業は以下のとおりです。



## I. 畜産経営を支援する事業

## 1) 中央情報活用体制整備事業

経営情報等の提供、データベースによる経営管理、飼養管理プログラムを活用し経営改善を図る生産者への支援等の実施。

## 2) 肉用牛繁殖基盤強化総合対策事業

黒毛和種繁殖農家に対する増頭奨励金、酪農家に対する登記可能受精卵移植奨励金等の交付。

## 3) 県産豚肉知名度向上対策事業

県内銘柄豚肉生産者・販売者等と連携し県産豚肉の知名度向上のための広報活動等の実施。

## II. 家畜衛生向上に関する事業

## 1) 家畜生産農場清浄化支援対策事業

オーエスキ一病の清浄化対策、家畜の損耗防止のための予防接種等の助成。

## 2) 高病原性鳥インフルエンザ防疫強化緊急対策事業

高病原性鳥インフルエンザの発生を確実に防止するため、防疫知識の普及啓発、ウイルス侵入防止体制の

整備に必要な機械施設の貸付。

## III. 畜産の活性化に関する事業

## 1) 人材活用モデル体制整備事業

畜産経営に必要な人材を確保紹介し経営支援の実施。

## 2) 畜産関係団体調整機能強化、安全安定供給相互理解体制推進、交流牧場協議会等

畜産に携わる女性のグループ「ちば畜産レディースネットワーク」活動への支援、安全安定供給の相互理解と食育推進のため生産者・流通団体・教育機関・消費者(生徒児童を含む)団体等との交流会・調理体験教室等の開催。

## IV. 畜産経営の安定化を図る事業

## 1) 肉用子牛生産者補給金制度、肉用牛肥育経営安定対策事業、肉豚価格差補てん緊急支援特別対策事業

情勢の変化に対応して、肉用子牛の価格補償、肉用牛肥育農家への所得補償、肉豚の価格補償をすることにより、経営の安定と健全な発展を図る。

## ◎平成20年度 畜産協会事業推進体制について

以下の体制で上記事業を推進してまいります。よろしくお願ひいたします。

《理事会》	総務部	事業部	家畜衛生部	養豚部
会長 森 英介	(兼) 部長 松田 延儀	部長 前之園孝光	部長 薫田 耕平	部長 加藤 健三
会長代理 奥澤 捷貴	(兼) 次長 奥住 英雄	次長 奥住 英雄	次長 高橋 早苗	次長 江ヶ寄健一
副会長	総務課	経営支援課	衛生指導課	養豚課
理事	課長 佃 幸子	主任技師 武田 善秀	調査役 大崎 道康	課長 鈴木 真理子
専務理事 松田 延儀	主査 長谷川洋子	技師 宮上 竜也	主任技師 金杉 文一	臨時 石山 操
常務理事 樋口 勝治		主事 榎屋健太郎	臨時 高橋 真理	臨時 鈴木 恵子
《委員会》				臨時 濑口 麻美
畜産物価格補償審議委員会 家畜衛生評議委員会 養豚振興委員会 エコフィード利用推進委員会				

## 主要事業紹介①

肉豚の肥育経営者の皆様へ

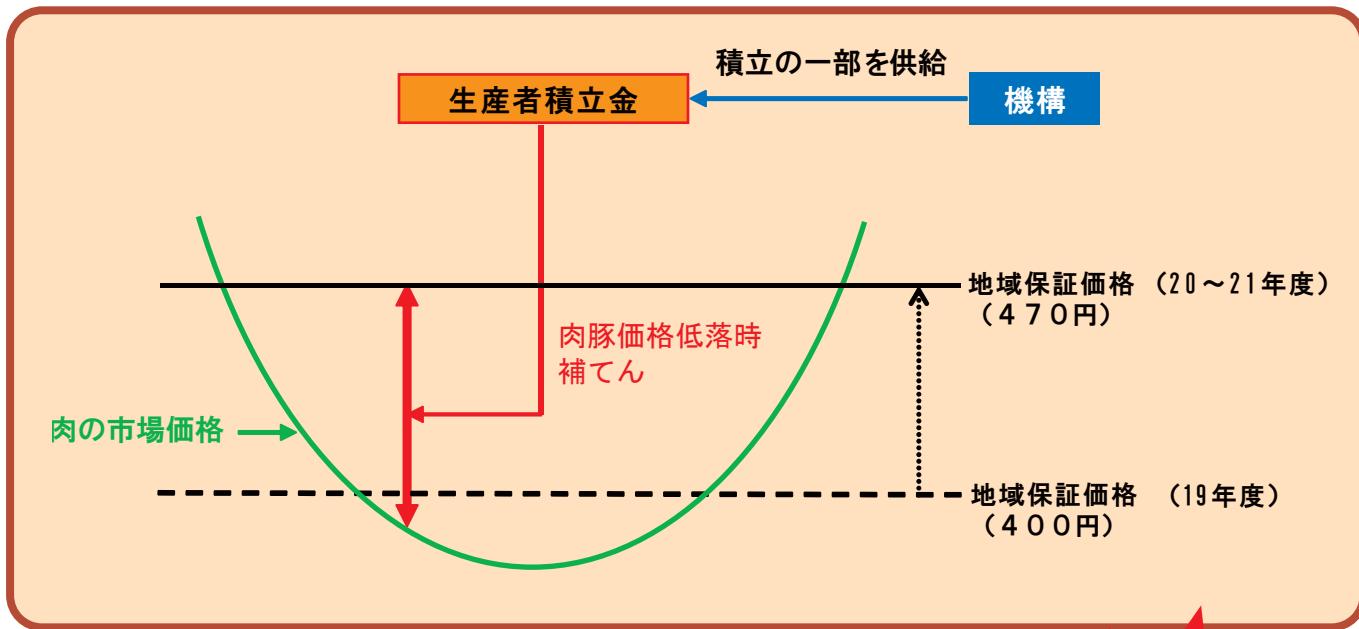
# 肉豚価格差補てん事業に加入し経営の安定的発展を

## 肉豚価格差補てん事業とは

都道府県単位で生産者等自らが自主的に基金を積み立てて、肉豚価格の低落時にその基金を取り崩して、事業に加入している契約者に地域保証価格（470円）との差額を補てんする事業です。

平成20年度からは、配合飼料価格の高騰等に対応して、地域保証価格を400円から470円に引き上げ、積立金の一部を独立行政法人農畜産業振興機構が補助する仕組みとなりました。

## 肉豚価格差補てん事業の仕組み



### ●平成19年度に加入した方

年度契約（生産性向上計画を含む。）の手続き等が必要です。

手続きをお急ぎ  
ください!!

### ●平成20年度に加入を希望する方

次の契約要件を満たす必要があります。

- ア ①認定農業者、または②認定農業者に準ずる者として都道府県知事が特例的に認めた者であること
- イ 配合飼料を利用し平成19年度に配合飼料価格安定制度に加入している場合、引き続き平成20年度において同制度に加入していること
- ウ 県団体が別に定める追加的な要件

いずれの方も、平成20年5月1日～31日に手続きが必要です。

**本制度に加入し、肉豚の安定供給と経営の安定的な発展を目指しましょう!!**

詳しい内容・手続き等については、下記までお問い合わせください。

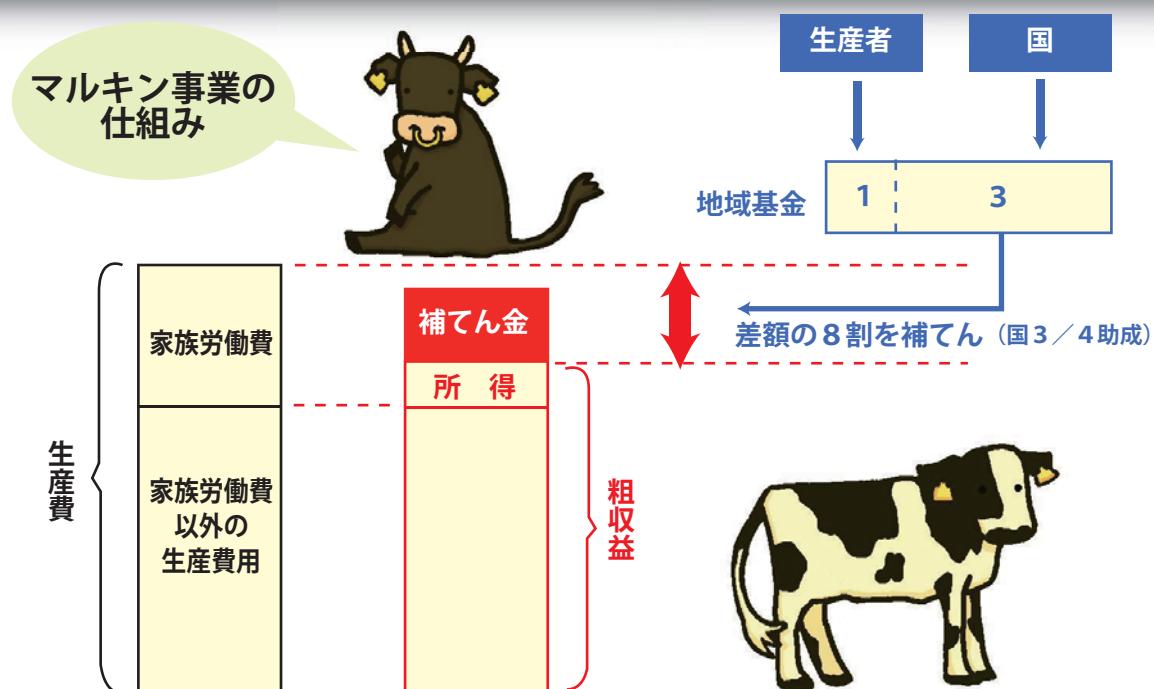
(社)千葉県畜産協会 事業部 価格安定課 電話：043-242-6333

## 主要事業紹介②

## お問い合わせ!! [ださ!!] 肉用牛肥育経営安定対策事業(マルキン事業)に 加入し、肥育経営の安定を図りましょう！！

現在、加入されていない皆様も、平成20年度に限り、次の要件を満たすことで途中加入できます。

- ①認定農業者、または認定農業者に準ずる者として都道府県知事が特例的に認めた者であること。
- ②県団体が別に定める生産者特別負担金を県団体が別に定める期限までに納付すること。
- ③都道府県の区域内の肉用牛肥育経営体で、牛の肥育を行う者で当該肉用牛に係る損益が帰属する者。
- ④配合飼料を利用し平成19年度に配合飼料価格安定制度に加入している場合、引き続き平成20年度において同制度に加入していること。



●事業途中加入の申込受付期間

平成20年5月1日から**5月22日まで**に肥育牛補てん金交付申込書を提出してください。  
なお、申込時に必要な書類は、県団体にお尋ねください。

●生産者特別負担金の額、納付期限

県団体が別に定めます。

●対象となる牛

6カ月齢から14カ月齢に達する日までに県団体に申し込みされた牛が対象となります。  
現在飼養されているすべての牛が対象とはなりませんのでご注意ください。

詳しい内容については、下記の県団体にお問い合わせください。

(社)千葉県畜産協会 電話: 043-242-6333

マルキン事業では牛トレサ法による肥育牛の確認を行っています。  
転入、転出報告は必ず行いましょう！

## 主要事業紹介③

ご存知ですか

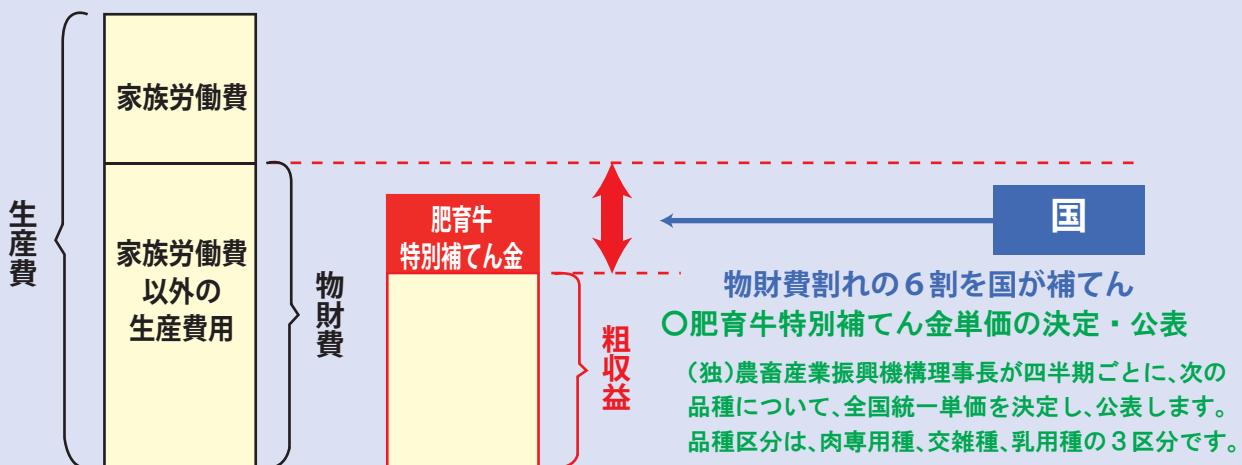
肉用牛肥育経営者の皆様へ

## 肥育牛生産者収益性低下対策事業

お急ぎ下さい

平成20年度から配合飼料価格の高騰や枝肉価格の低迷などによる物財費割れの一部を補てんするための『肥育牛生産者収益性低下緊急対策事業』が、緊急的・時限的(平成20~21年度限り)に実施されます。

## 緊急対策事業の仕組み



## ●事業参加者の要件

- ・肉用牛肥育経営安定対策事業(マルキン事業)に加入している者で、生産性向上計画に取り組む者。
- ・配合飼料を利用し平成19年度に配合飼料価格安定制度に加入している場合、引き続き平成20年度において同制度に加入していること。

## ●事業参加申込受付期間

平成20年5月1日から5月22日までに、事業参加申込書を提出してください。

**事業参加者の自己負担は一切ありません。**

詳しくは、下記までお問い合わせください！！

(社)千葉県畜産協会 事業部 價格安定課 電話:043-242-6333

## 主要事業紹介④

## 高病原性鳥インフルエンザ防疫強化緊急対策事業が今年度まで延長

現在、韓国では高病原性鳥インフルエンザ(H5N1型)が養鶏場で多発しています。いつ日本に侵入するかわからない状況にあります。家畜防疫の原点でもあります、ウイルス侵入防止体制整備を全国規模で実施することが緊要となっています。

皆さんの農場は大丈夫ですか？ 整備がまだお済みでない方は早急の対応をお願いします。集団等で整備される方は下記の補助事業がありますので是非この機会にご活用ください。

記

ウイルス侵入防止体制整備(補助率1/2以内)

(1)車両消毒装置設置費

養鶏密集地帯等の農場間を移動する関係車両を消毒するための簡易な消毒装置に要する経費

(2)電動噴霧器等購入経費

養鶏密集地帯等の農場間を移動する関係車両消毒に用いる電動噴霧器等の購入に要する経費

(3)ホルマリン燻蒸装置等購入費

ねずみ等の駆除に用いる機器等の購入費

## 主要事業紹介⑤

# 畜産経営の安定的発展のため、飼料購入資金を 低利で融通

## 家畜飼料特別支援資金融通事業

## 1 事業の目的

配合飼料価格の上昇に対応して、畜産経営に対する飼料購入に要する資金の融通を行うことにより、畜産の安定的発展を図ります。

## 2 事業の内容

配合飼料価格（補てん金を除く農家実質負担価格）が上昇し、畜産経営の経営努力を踏まえても、生産コストが収益を上回る水準（指標として単位当たり配合飼料価格の水準を設定）となった場合、当事業の資金を発動します。（配合飼料の推定農家実質負担額が、47,700円／トンを上回る四半期について発動。負担額及び発動については、各四半期末までに（独）農畜産業振興機構が公表。）

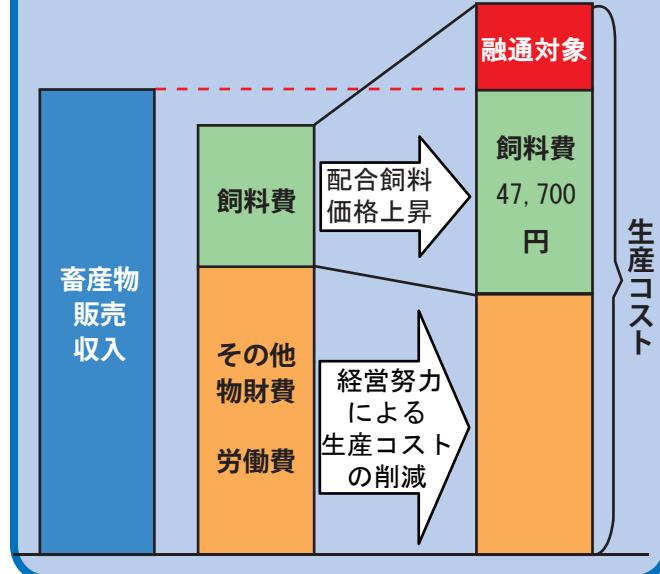
融資を受ける畜産経営は、限度額の範囲内において生産性向上計画を策定し、その計画に対して融資機関等が飼料購入資金の融通を行います。事業実施主体の（社）中央畜産会は、融資機関に対して利子補給を行います。

- ①資金の用途 飼料費
- ②貸付利率 1.25%（平成20年3月19日現在）
- ③償還期間 10年以内（うち据置期間3年以内）
- ④貸付限度額 表のとおり（本年4月より倍増）
- ⑤利子補給率 農業近代化資金の基準金利と貸付利率との差
- ⑥融資機関 農協、農協連、農林中央金庫、銀行等
- ⑦事業実施主体 （社）中央畜産会
- ⑧事業実施期間 平成19～21年度

【表】貸付限度額について	
牛 肥育牛	：40千円／頭
乳用牛	：30千円／頭
繁殖雌牛	：8千円／頭
豚	：8千円／頭
鶏	：40千円／100羽
ウズラ	：10千円／100羽

## 家畜飼料特別支援資金の考え方

現 状

配合飼料価格  
上昇時

## 3 資金の融通

借入希望者は、償還計画や生産性向上のための具体的な取組等を示した「生産性向上計画」を作成し、融資機関に提出していただきます。

その後、融資機関は意見を付して都道府県知事に提出し、都道府県知事が計画を承認。融資機関は、承認を受けた計画に対し、家畜飼料特別支援資金を融通（中央畜産会は、融資機関に対して利子補給を実施）します。

詳しい内容については、下記相談窓口までお問い合わせください。

（社）千葉県畜産協会 事業部 経営支援課 電話：043-242-8299

## 畜産新時代の「技術にふれて関心」「学んで感心」 ～地域畜産ふれあい体験交流推進事業～ 体験交流研修会を開催

平成20年3月24日(月)、千葉県東葛飾地域の消費者約40名を招き、食品残さ飼料化工場と自給飼料を積極的に活用している酪農家の見学会を行いました。

食品残さ飼料化工場(佐倉市)では、まずコンビニや外食産業から運ばれてくる食品残さの量に参加者は驚き、食料輸入国でありながら大量の食品残さが出る現状を目の当たりにして、日本の食糧事情を考えさせられる視察となりました。

酪農家(印旛村)では、NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター会員から、日常の作業や、トウモロコシやイネのホールクロップサイレージの活用、飼料を自給するため大変な苦労をしている状況を説明し、生産コストが上昇しつづけている畜産業界の現状を学び、畜産物の値上げに対する理解を求めました。

参加者からは、「牛から飼料まで細かく説明があり、安心した」「消費者も価格ばかりに目を向けず、生産者の苦労に目を向けなければ…」「もったいない、食べ物を残したり、捨てたりしては…」などの感想があり、今後の畜産を含めた日本の「食」を考える深い内容となりました。

(経営支援課 宮上)



コンテナに積まれる食品残さを目の当たりに

食品残さ  
飼料化工場見学



残さは成分ごとに分別、飼料化され給与されます

イネホールクロップサイレージのロールを前にサイレージの説明  
「たくさんの機械と手間をかけて作られています」



トウモロコシのホールクロップ  
サイレージの酸っぱいにおいを  
体感しつつ、貯蔵する巨大なサイ  
ロをのぞき込む



これだけの飼料を自給していても  
購入乾草を利用している現状を説  
明「自給はとても難しいことがわ  
かったが何とかならないか」と参  
加者の感想

### ～地域畜産ふれあい体験交流推進事業～

平成20年3月11日(火)  
東葛飾農林業センター(野田市)にて



調理後は、酪農の飼料高について  
勉強会を開きました

千葉県産豚肉「房総ポークC」を  
利用した料理を作り、味は大好評  
参加者から「どこで買えるの?」

### 加工調理体験教室も開催

平成20年3月23日(日)  
わたしの田舎・谷当工房(千葉市)にて



こちらも「房総ポークC」を  
使ったソーセージ作りを体験



丸一日かけて苦労して作った体験  
に「食べ物を作ることが大変なこ  
とがわかった」と参加者

## 幻の豚肉「ダイヤモンドポーク」 ～そごう千葉店で販売開始～

千葉県にもこんなに旨い豚肉があった。それが「ダイヤモンドポーク（千葉ヨーク）」です。昭和30年代に全国で一世を風靡したした千葉県産「ヨークシャー種（俗称：中ヨークシャー、以下『中ヨークシャー』という）」を県内7戸の養豚農家が復活させました。

中ヨークシャー種が本来持っているきめ細やかな肉質と優れた脂質に、県産のサツマイモをエサとして与えることで、口の中でとろけ、コクのある旨みに磨きがかかり、脂質の白さがより一層の輝きを放つようになったことから、宝石の最高峰ダイヤモンドに因み「ダイヤモンドポーク」と命名しました。県内初の取扱店としてそごう千葉店が決まり、そのことを記念して発売開始イベントが、堂本千葉県知事ほか県関係者、全農など関係団体、生産者、メディア等の多数の出席により盛大に開催されました。

（養豚部 加藤）



盛大に披露された「ダイヤモンドポーク」  
左から、ナイス君、千葉ヨーク振興協議会会長高橋秋男氏、ダイヤモンドポークのマスコットを手に堂本知事、銘柄証明書を掲げる吉田修一そごう千葉店長

### ダイヤモンドポークのこだわり

#### 《品種のこだわり》

一般の豚肉がランドレース種の雌に大ヨークシャー種の雄を交配した一代雑種 (LW) の雌豚にデュロック種雄を交配した三元交雑 (LWD) であるのに対してダイヤモンドポークは中ヨークシャーの純粹種で生産されます。1頭ごとに「純粹種肉豚証明書」が付けられ販売されます。

#### 《エサへのこだわり》

肉豚としての仕上げの2ヶ月間（出荷前）は、パンを主体としたエコフィードに千葉県産サツマイモを20%混ぜた「統一仕上げ飼料」を給与します。

サツマイモのデンプンが豚肉に吸収され、旨みと甘さを増す効果があります。

### ダイヤモンドポークの美味しさ

ダイヤモンドポークの肉質はきめ細かく、柔らかさ・ジューシーさが一般の豚肉に比べ極めて優れており、甘味成分であるグルタミン酸が豊富に含まれています。

また、脂肪酸組成の点では、食味の良さを示すオレイン酸が豊富であり、同時に食味にマイナスとなるリノール酸が少なく、脂肪の甘みがあり、口の中でとろける甘さが特徴となっています。

このように、ダイヤモンドポークは、良質な脂と旨味のある肉を味わうため、しゃぶしゃぶ、焼き肉等、肉そのものの味を生かした料理に適しています。

### 千葉県における中ヨークシャー種の歴史

昭和30年頃、千葉県では9万戸の農家が約11万頭の豚を飼っており、そのほとんどが中ヨークシャーでした。

農家はサツマイモを作り、等外品のサツマイモを煮て豚に与えていました。また、澱粉工場から澱粉甘藷の残渣を引き取り豚に与えていた農家もいました。

昭和27年の第1回全日本豚共進会から第5回（昭和39年）ごろまでの出品豚は中ヨークが主体であり、優等賞を毎回の10頭も獲得し、全国に「千葉ヨーク」の優秀性を誇示し注目を浴びました。

しかし、昭和40年代に入ると、全国的にも生産効率の高い大型の豚に置き換わり、平成年代には、県内でも趣味的に飼われるだけとなってしまいました。

平成10年頃、一人の養豚農家が、ある食肉工房から中ヨークの枝肉を納入するよう依頼され、国の種畜場から雄1頭、雌2頭を導入し、試行錯誤を繰り返しながら頭数を増やしていました。

平成13年になり、かねてより食肉加工業者から中ヨークを依頼されていた食肉卸業者の営業部長が、ふつうの豚枝肉の中に混じって保管されていた中ヨークを見つけました。すぐに農家に生産を依頼し、そのほかの生産者にも声をかけ、中ヨークの生産は拡大していました。

平成16年になって、中ヨークの飼育を始めた7戸の養豚農家が集まり、全国農業協同組合連合会千葉県本部を事務局とした「千葉ヨーク振興協議会」が発足しました。

また、千葉県畜産総合研究センターではサツマイモを添加した「統一仕上げ飼料」の給与試験を行い、その成績をもとに飼料はエコフィード製造会社が担当しました。

全国農業協同組合連合会千葉県本部と食肉卸業者は販売ルートの開拓に努め、養豚農家は美味しい豚肉の生産に心血を注ぐことができました。

平成20年春、幻の豚「千葉ヨーク」が「ダイヤモンドポーク」として復活しました。

## 県産豚肉の「統一名称及びキャッチコピー」

### “旨さが多彩・チバザポーク”

平成20年2月22日（金）千葉市美浜区幕張メッセ国際展示場において見本市商談会が開催されました。

今回この会場で、県産豚肉キャッチコピー発表会が、白戸千葉県副知事はじめ関係団体等多数の関係者が出席して行われました。

この企画は、千葉が全国有数の豚肉生産県であることを広く知ってもらうため、県単独事業である「平成19年度千葉県産豚肉知名度向上促進対策事業」の一



商談をすすめる生産者代表  
中ヨークシャー純粹種の豚の説明と肉質の美味しさを細かく説明する。見本市の中でも最も人気を集めたブース



マスコットを抱えて県産豚肉をPRする  
白戸副知事・加藤農林水産部長

環で養豚県千葉をPRするため、生産者・加工流通業者、販売業者、消費者等からなる県産豚肉販売促進協議会において決定した統一名称「チバザポーク」、キャッチコピー「旨さが多彩」の発表会を行ったものです。統一名称は「千葉県産の豚肉は、豚肉の中の豚肉」という意味を込めて決定したもので、今後スーパー等における銘柄豚の売込みやイベント等で積極的に活用していくことになります。見本市商談会では、県産豚肉「ちばヨーク・元気豚・マーガレットポーク」などが出店し売り込みに懸命でした。 (養豚部 加藤)

## 畜産の危機に向けて、気持ちをひとつに ～畜産関係団体情報交換会開催～

平成20年3月26日（水）に、千葉市・プラザ菜の花にて、千葉県畜産協会主催による畜産関係団体情報交換会が開催されました。

配合飼料価格の高騰は畜産生産者にとって、今までにない危機的な経営環境にあります。これを受け国は畜産・酪農緊急対策を公表し、詳細は明らかではありません。そこで、現状の課題等をお互いに共有し、対策的確な実行を図るため、8の県関係機関と20の関係団体から41名の出席を得て行われました。

情報交換会では最初に県畜産課担当室長から、農業産出額第2位奪還を目指して、畜産産出額1,000億円の維持拡大を図るための20年度の県の施策についての説明があり、次いで飼料高騰による極めて厳しい経営環境にある畜産・酪農農家経営に対し、畜産物価格の決定と併せて実施される「畜産・酪農緊急対策」について説明がありました。

畜産関係団の関係者からは、「家畜飼料特別支援資金事業は現場ではなかなか浸透していない」「返済計画が書けないほど飼料費が値上がりしており、県独自の補償を願いたい」「県産和牛増殖サポート事業で、牛を買い付けに行ったが、値段が高く優秀な牛は買えず厳しい」「バイオマス燃料を利用しやすい仕組み作りをしてほしい」などの発言があり、活発な情報交換が行われました。

なお、千葉県畜産協会では、今後とも適宜この情報交換会を開催していく予定です。 (事業部 奥住)



会議の冒頭、あいさつする松田専務理事

## 平成20年度 千葉県 畜産関係機関一覧表

農林水産部 千葉市中央区市場町1-1		
部署・TEL	職名	氏名
043-223-2800	部長	加藤 勝
043-223-2801	理事	鈴木 隆
043-223-2804	次長	内田 芳雄
043-223-2803	次長	小林 久

畜産課 千葉市中央区市場町1-1		
FAX:043-222-3098		
部署・TEL	職名	氏名
043-223-2931	課長	新城 恒二
043-223-2929	副課長	北崎 裕
043-223-2930	副課長	山端 指一
企画経営室 043-223-2927 043-223-2777 043-223-2921	副課長兼室長	山端 輝一
	副主幹	長谷川 俊則
	副主幹	松木 英明
	副主幹	富田 耕太郎
	主査	可世木 仁哉
	主査	小倉 隆雄
	主査	川口 とし江
	主査	西谷 宗久
	主査	山崎 直
	主査	酒井 宏和
	技師	丸山 武則
	主幹兼室長	花澤 信幸
生産振興室 043-223-2926 043-223-2939 043-223-2943	主幹	椎名 厚夫
	副主幹	山田 美代子
	副主幹	杉本 裕
	副主幹	笠井 貞義
	副主幹	渡辺 博剛
	主査	大塚 洋功
	主任主事	野口 奈保美
	技師	小林 夏奈子
	副技監兼室長	伊藤 健
	主幹	井上 貢
	主幹	大木 雅行
	副主幹	岡田 望
衛生環境推進室 043-223-2923 043-223-2938 043-223-2944 BSE 対策本部 043-223-3084	副主幹	高橋 岩雄
	副主幹	青木 茂
	副主幹	中嶋 浩之
	主査	島田 純
	主査	江森 美香
	副主査	岩井 宏

中央家畜保健衛生所 千葉市花見川区三角町658		
TEL:043-250-4141 FAX:043-286-0090		
庶務課	所長	樋葉 雅和
	次長	山崎 修一
	課長	三瓶 友治
	副主査	深澤 朋子
衛生指導課	課長	陰山 潔
	上席専門員	坂元 依子
	上席専門員	玉江 俊嗣
	上席専門員	江森 格
	技師	佐藤 典子
	次長兼課長	山崎 修一
	上席専門員	菅沢 淳一
防疫課	上席専門員	藤野 晴彦
	技師	萩原 妙子
	次長兼課長	山崎 修一
	上席専門員	菅沢 淳一
佐倉市岩富町497	上席専門員	藤野 晴彦
	技師	萩原 妙子
	次長兼課長	山崎 修一
病理生化学課	課長	白井 幸夫
	上席専門員	原 普
	上席専門員	原 康弘

部署	職名	氏名
病理生化学課	上席専門員	石原 勇人
	上席専門員	早坂 成郎
	上席専門員	小川 明宏
	技師	関口 真樹
細菌ウイルス課	次長兼課長	白井 幸夫
	上席専門員	芦澤 尚義
	上席専門員	川口 直樹
	上席専門員	松本 敦子
	専門員	高木 素
	専門員	平畠 淳
	技師	佐藤 岳彦

東部家畜保健衛生所 東金市川場1105-3		
TEL:0475-52-4101 FAX:0475-52-3335		
衛生指導課	所長	斉加 啓三
	次長	柳川 芳輝
	課長	乾 昭志
	副主幹	並木 俊雄
	上席専門員	安川 葉子
	上席専門員	古屋 智子
	上席専門員	明石 良信
	専門員	笠井 史子
	主任技師	石川 直子
	課長	小野寺道寛
防疫課	上席専門員	橋本 能子
	上席専門員	飯田 直樹
	専門員	一円 央子
	技師	橋本 亮

南部家畜保健衛生所 鴨川市八色52		
TEL:04-7092-2304 FAX:04-7092-1434		
衛生指導課	所長	石井 利男
	次長	長田 貴
	課長	柴田 祥子
	副主幹	鈴木 正和
	上席専門員	片山 雅一
	専門員	堀 仁
	専門員	猪俣 一陽
	技師	塚原 涼子
	技師	倉地 充
	課長	羽毛田 稔
防疫課	上席専門員	小谷 嘉宏
	専門員	笠井 英
	専門員	田中 なほ子
	技師	吉田 喜一郎

北部家畜保健衛生所 香取市岩ヶ崎台12-1		
TEL:0478-54-1291 FAX:0478-54-5996		
衛生指導課	所長	村嶋 孝志
	次長	三輪 律子
	主幹	額賀 勉
	課長	稻毛 幹雄
	副主幹	前林 知男
	上席専門員	青木 ふき乃
	上席専門員	堤 節子
	上席専門員	飯嶋 武太郎
	主任技師	関野 友利華
	技師	渡邊 章俊
防疫課	主任用務員	渡邊 あや子
	次長兼課長	三輪 律子
	上席専門員	武石 佳夫
	上席専門員	木下 智秀
	技師	福井 聰子

畜産総合研究センター 八街市八街へ 16-1 TEL:043-445-4511 FAX:043-445-5447			部署		職名	氏名
			センター長	鶴岡 則夫		
			次長	中嶋 洋一郎		
			次長	大久保 貞裕		
			課長	門井 和義		
			副主幹	猪野 精治		
			主査	小川 敏夫		
			副主査	井口 澄江		
			主事	糸久 貴子		
			部長	塩沢 康正		
			室長	田島 敏夫		
			主席	渡邊 晴生		
			主席	園原 邦治		
			主席	鈴木 一好		
			上席	脇 雅之		
			上席	鮎川 伸治		
			室長	山田 真希夫		
			主席	大泉 長治		
			主席	杉本 清美		
			主席	青木 ひかる		
			主席	細谷 肇		
			部長	小椋 滋		
			室長	木下 善満		
			主席	石崎 重信		
			上席	川嶋 賢二		
			上席	丸山 朝子		
			上席	小林 正和		
			研究員	西川 潤		
企画環境部	企画経営室	室長	田島 敏夫	養豚養鶏研究室	室長	岡崎 好子
		主席	渡邊 晴生		主席	徳丸 洋一
		主席	園原 邦治		主席	村野 多可子
		主席	鈴木 一好		主席	鈴木 邦夫
		上席	脇 雅之		上席	高橋 圭二
		上席	鮎川 伸治		研究員	遠藤 篤
	環境飼料研究室	室長	山田 真希夫		室長	松本 友紀子
		主席	大泉 長治		主席	神山 佳三
		主席	杉本 清美		主席	中根 崇
		主席	青木 ひかる		主席	坂元 克弥
生産技術部	乳牛肉牛研究室	主席	細谷 肇		上席	山口 優子
		部長	小椋 滋	市原乳牛研究所	所長	藤崎 俊治
		室長	木下 善満		主幹	反町 裕
		主席	石崎 重信		主席	村田 宏之
		上席	川嶋 賢二		主席	牛島 仁
		上席	丸山 朝子		主査	三橋 恵美子
		上席	小林 正和		上席	齊藤 健一
		研究員	西川 潤		上席	平尾 明
					研究員	辰野 直子
				畜産総合研究センター 市原乳牛研究所 市原市国本 602		
企画環境部	企画経営室	室長	田島 敏夫	市原乳牛研究所	所長	藤崎 俊治
		主席	渡邊 晴生		主幹	反町 裕
		主席	園原 邦治		主席	村田 宏之
		主席	鈴木 一好		主席	牛島 仁
		上席	脇 雅之		主査	三橋 恵美子
		上席	鮎川 伸治		上席	齊藤 健一
		室長	山田 真希夫		上席	平尾 明
		主席	大泉 長治		研究員	辰野 直子
		主席	杉本 清美			
		主席	青木 ひかる			
生産技術部	環境飼料研究室	主席	細谷 肇	嶺岡乳牛研究所 南房総市大井 686	所長	米本 貞夫
		部長	小椋 滋		主幹	松岡 邦裕
		室長	木下 善満		主席	山下 秀幸
		主席	石崎 重信		主査	小原 利枝子
		上席	川嶋 賢二		主席	梶川 和彦
		上席	丸山 朝子		上席	永福 和明
		上席	小林 正和		研究員	千葉 耕司
		研究員	西川 潤			

所属	所在地	TEL	FAX	部署	職名	氏名
千葉農林振興センター	千葉市緑区 大金沢町 473-2	043-300-0950	043-293-2710	振興普及部	地域振興課	技師 有路 優子
東葛飾農林振興センター	柏市柏 255-1	04-7162-6151	04-7162-6154	振興普及部	改良普及課	普及指導員 伊藤 穎昭
印旛農林振興センター	佐倉市鎌木 仲田町 8-1	043-483-1128 043-483-1130	043-485-9502	振興普及部	地域振興課	普及指導員 鎌田 望
香取農林振興センター	香取市佐原イ 4149 -57	0478-54-1320 0478-54-1338	0478-52-6580 0478-55-1703	振興普及部	改良普及課	副主幹 本庄 章 副主幹 貝沼 宏彦 上席普及指導員 松田 哲夫 上席普及指導員 荒井 真澄 上席普及指導員 伊藤 郁子 普及技術員 野村 俊介
海匝農林振興センター	旭市二 1997-1	0479-62-0334	0479-62-4482	振興普及部	地域振興課	副主幹 井出 基雄 技師 伊藤 香葉 上席普及指導員 山口 岳雄 上席普及指導員 宮本 光浩 普及指導員 木内 三男 普及指導員 新垣 裕子
山武農林振興センター	東金市東新宿 1-1-11	0475-54-0226	0475-52-7914	振興普及部	改良普及課	副主幹 福島 達哉 主査 篠塚 正則 上席普及指導員 平野 和則 上席普及指導員 菅谷 茂明 普及指導員 青木 大輔
長生農林振興センター	茂原市茂原 1102-1	0475-22-6728 0475-22-1771	0475-25-2061	振興普及部	地域振興課	副主幹 岩澤 進 上席普及指導員 伊藤 静雄 普及技術員 君塚 時江
夷隅農林振興センター	大多喜町 猿稻14	0470-82-4957	0470-82-5348 0470-82-3975	振興普及部	改良普及課	副主幹 岩澤 進 上席普及指導員 林 貴雄 普及技術員 松野 健二
安房農林振興センター	館山市北条 402-1	0470-22-8131 0470-22-8132	0470-22-0097	振興普及部	地域振興課	副主幹 風間 達也 上席普及指導員 中村 英夫
君津農林振興センター	木更津市貝渕 3-13-34	0438-23-0299	0438-23-6698	振興普及部	改良普及課	副主幹 大小原 正弘 副主査 渡辺 聰 上席普及指導員 山田 博 普及技術員 安田 直登 普及技術員 大河原 澄香

## ちば畜産レディースネットワーク通信



柴会長から、ネットワークの活動趣旨について説明  
(畜産関係団体情報交換会H20.3.26にて)



須藤副会長から、教育ファーム活動と酪農の現状を説明、  
関口副会長、大松役員からもそれぞれご発言をいただきました。  
(人材活用推進委員会H20.3.27にて)

女性の視点で  
発言中

少しずつですが、レディースネットワークの活動の場が広がってきています。

消費者への啓蒙活動に加え、県関係機関や畜産関係団体と交流し、連携をとっていくため、畜産協会等が主催する会議に役員のみなさんにご出席いただき、畜産現場の生の声を直接関係機関・団体に伝えました。

今後とも様々な活動を行っていきます。会員のみなさまにはご協力ををお願いいたします。(経営支援課 宮上)

ネットワークについてのお問い合わせはこちままで  
ちば畜産レディースネットワーク事務局(千葉県畜産協会内・宮上)  
TEL: 043-242-8299  
FAX: 043-238-1255

## NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター 通信

## ●会員について

平成20年4月現在、当NPO法人の会員数は合計43となり、その内訳は正会員38(個人30・団体8)賛助会員5(個人4・団体1)となりました。最近では、生産者や税理士さん、農水省OBの方も加わり、当NPOも少しずつ多彩な顔ぶれとなりつつあります。

## ●生産者等に対する支援活動

設立1年目の昨年度から種々検討してきましたが、いよいよこの春から一部の支援活動を開始することになりました。まだ、実際に活動可能な人材が少ないため、とりあえず、酪農3戸(管理技術等)・養豚1戸(経営管理全般)から始めることにいたします。また、千葉県農業大学校の非常勤講師として、その人材紹介も始めました。

支援活動を徐々に拡大したいため、幅広く会員を募集しております。皆様の入会をお待ちしております。

入会金:個人1,000円 団体5,000円 年会費:個人3,000円(正会員・賛助会員とも) 団体:正会員10,000円 賛助会員 5,000円

## ●(社)畜産技術協会の「民間活力を活用した実態調査」への取り組み

今年度、当県畜産協会が上記協会の畜産技術開発事業に係わる実態調査に取り組むことになりました。これは、給与・飼料と繁殖関係の実態を把握して酪農経営の向上を図ろうとするものです。このうち、当NPOは繁殖関係を分担することになりました。(事務局 高梨)

入会申込みや畜産に関するご相談等をお待ちしております。

お問い合わせは…NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター事務局  
TEL:043-242-5417 FAX:043-238-1255

## 編集 後記

「畜産ネットワークちば」は平成17年1月に会員相互の情報伝達の手段として、本協会の再編統合を機会に創刊され今年で4年目を迎えました。その間、10号を発刊し内容も発行を重ねる毎に充実し、白黒からカラー印刷へと変り、現在850部を発行するに至っています。

さて、早々に第一回の編集会議が開かれ本冊子の年間の方針等が話し合われました。今年度はさらに充実を図るために文章を簡潔にして写真を多くすることとし

発刊は4月、7月、10月、1月の4回の予定です。記事の内容や構成、この情報誌に何を期待しているか、何を読みたいか等々忌憚のないご意見をどしどしお寄せください。

編集委員は通常業務をこなしながらの情報収集・編集・発行で、発行の遅れや、至らない面が多くあると思いますが、皆様により満足のいく内容に出来上がるよう全力で頑張る所存でございますので、今後ともご支援をお願いします。

(家畜衛生部 薫田)

総務課	TEL 043-242-5417(代)	FAX 043-238-1255	info@chiba.lin.go.jp
経営支援課	TEL 043-242-8299	FAX 043-238-1255	cb-keiei3@woody.ocn.ne.jp
価格安定課	TEL 043-242-6333	FAX 043-238-1255	tb-koushi@pop21.odn.ne.jp
衛生指導課	TEL 043-241-1738	FAX 043-241-3853	chieishi@aioros.ocn.ne.jp
養豚課	TEL 043-241-3851	FAX 043-241-3853	egasaki@np-chiba.jp